
無せきつい動物



ガンバレ!! まけるな!! ナメクジくん

三輪一雄／作・絵

偕成社 2004年 1000円

大昔、水中に棲んでいた巻貝の1グループが、長い年月をかけて陸に上がりカタツムリとなりました。そのカタツムリの1グループが更に気が遠くなるほど長い年月をかけて、徐々に殻を小さくしていってナメクジが誕生しました。嫌われもののナメクジにも思わずガンバレ!とエールを送りたくなります。



ざりがに (かがくのとも傑作集)

吉崎正巳／文・絵
須甲鉄也／監修

福音館書店 1976年 900円

捕まりそうになったザリガニが、子どもの指を挟んだままハサミを残して逃げていきました。1本のハサミになってしまったザリガニも、古い殻を脱ぎすぎて脱皮すると、ちゃんと2本のハサミが付いていました。産卵や成長の様子も描かれています。



クモのいと (ふしぎいっぱい写真絵本 16)

新開孝／写真・文

ポプラ社 2009年 1200円

クモは魔法のように糸を出し、きれいな網をつくります。糸を巧みに使うクモの暮らしを、美しい写真で紹介します。更に詳しくクモの生態を知るには『おどろきのクモの世界』(誠文堂新光社) がお薦めです。

(参考図書)

『おどろきのクモの世界』

網をはる 花にひそむ 空をとぶ

(子供の科学 サイエンスブック)

新海栄一／著 新海明／著

誠文堂新光社 2009年 2200円

いもむしのうんち (ふしぎ発見シリーズ 6)

林長閑／監修

E. E. net／構成

アリス館 1995年 1262円

※現在品切れ

クスノキを食草にしているアオスジアゲハの、卵から成虫に至るまでのいもむしとそのうんちを観察した本です。1令幼虫から5令幼虫までのすべての実物大のうんちが順を追って並びます。いもむしは、葉っぱをどっさり食べて、うんちをしながら大きくなっていくのです。



公共図書館か
学校図書館で
ごらんください。

162ひきのカマキリたち

(月刊かがくのとも通巻374号)

得田之久／作

福音館書店 2000年 362円

※現在品切れ

春、カマキリの卵のうからたくさんの中もたちが誕生します。全部で162匹も生まれたカマキリの子どもですが、アリやカエル、クモなどに食べられたり、雨や風に流されたり飛ばされたりして、7回の脱皮を経て大人のカマキリになれたのはたった1匹です。その1匹からまた、次の命がつながっていきます。



公共図書館か
学校図書館で
ごらんください。



ダンゴムシ 落ち葉の下の生き物

(科学のアルバム かがやくいのち)

皆越ようせい／著

岡島秀修／監修

あかね書房 2010年 2500円

くるっと丸くなるダンゴムシは、子どもたちに身近で、人気があります。その生態が写真で詳しく解説され、飼育情報も紹介されています。低学年の子には、『ぼく、だんごむし』(福音館書店) もお薦めです。

(参考図書)

『ぼく、だんごむし』(かがくのとも傑作集)

得田之久／文 たかはしきよし／絵

福音館書店 2005年 900円

『ダンゴムシ みつけたよ』(ふしぎいっぱい写真絵本)

皆越ようせい／写真・文

ボプラ社 2002年 1200円

『うみのダンゴムシ・やまのダンゴムシ』(ちしきのぼけっと)

皆越ようせい／写真・文

岩崎書店 2009年 1400円



トンボのなかま
(海野和男のワクワクむしづかん 5)
海野和男／写真・文

新日本出版社 2009年 1400円

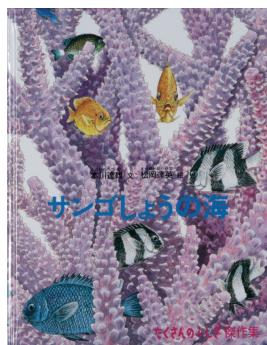
日本には200種以上のトンボがいます。この本ではそれらのトンボを紹介し、トンボが4枚の羽を別々に動かして空中を巧みに飛ぶことや、ヤゴから成虫への成長、羽化、交接産卵が写真で紹介されています。



ウミウシ (たくさんふしぎ傑作集)
中野理枝／文
豊田直之／写真

福音館書店 2009年 1300円

「海の宝石」と呼ばれるほど美しく鮮やかな色の体を持ち、海の中のいろんな場所に生息しているウミウシ。毒を持っているカイメンやホヤを餌にし、その毒を体内にためこみ敵から身を守っています。生き延びるための生態など興味が尽きません。



サンゴしょうの海 (たくさんふしぎ傑作集)
本川達雄／文
松岡達英／絵

福音館書店 1992年 1300円

小学3年生の達彦君が、夏休みに沖縄のサンゴ礁の海に潜ります。枝サンゴの周りに群れる魚たち、イソギンチャクと助け合って生きているクマノミ、サンゴを食べるオニヒトデ、そのオニヒトデと戦うハナヤサイサンゴなど。サンゴ礁で繰り広げられる巧みな共生など、自然の様子を達彦君と探ります。



貝殻の採集と観察 馬場勝良／著

さ・え・ら書房 2002年 1400円

砂浜に打ち上げられた貝殻には、独特の美しさがあります。海辺の野外活動は、潮時や天候の良し悪しで、いつでもいきたいときに行けるわけではありません。活動前の準備から、実際の活動時の留意点、採集物の整理や記録の仕方までをわかりやすく書いています。

(参考図書)

『日本の貝』(フィールドベスト図鑑) 1巻、2巻

奥谷喬司／著

学研 2006年 各1900円



米が育てたオオクワガタ (イワサキ・ノンフィクション 4) 山口進／写真・文

岩崎書店 2006年 1200円

以前はたくさんいたのに最近はまったく姿を見なくなってしまったオオクワガタ。虫好きの著者が、里山を歩き、その原因を探っていきます。日本全国で見られた「刈穂」という水田稲作の方法が消えてしまったことに関係することがわかつきました。

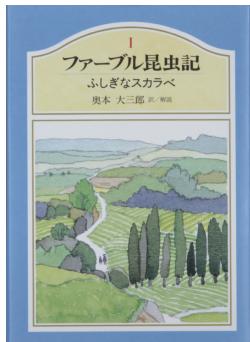


樹液をめぐる昆虫たち (わたしの昆虫記 4) 矢島稔／著

川島逸郎／装画・イラスト

偕成社 2005年 1600円 ★シリーズ全6巻

夏の雑木林では、樹液をめぐる虫たちの闘いが繰り広げられます。「なぜ、樹液の出る木がきまるのか、どういう原因で出るのか」。40年に及ぶ昆虫とのかかわり、自然との共生への願いから生まれた著者のライフワーク『わたしの昆虫記』全6巻の一冊です。

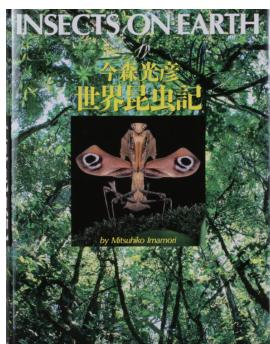


ファーブル昆虫記 1 ふしぎなスカラベ

奥本大三郎／訳・解説

集英社 1991年 1600円 ★シリーズ全8巻

フランスの博物学者ジャン=アンリ・ファーブルが、昆虫の行動をつぶさに観察研究した記録で、自然科学書の古典として読み継がれてきました。フランス文学者で、昆虫に関する知識の豊富さでも有名な、奥本大三郎氏の訳です。ジュニア版として編集され、わかりやすい脚注と解説も付いています。

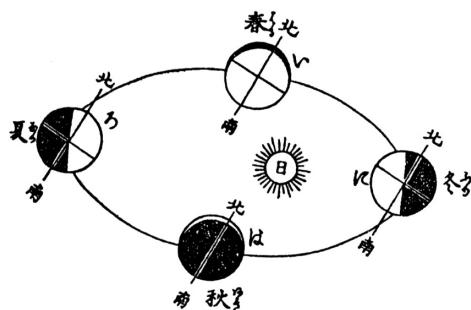


世界昆虫記

今森光彦／著

福音館書店 1994年 5000円

地球上の辺境を、20年近くにわたり旅をしながら撮影した、1300点の写真。熱帯の森の中で怪しく光る珍虫、様々な擬態、奇妙な頭部を持つ虫…、大自然の中で息づく小さな命、昆虫への興味をかきたてられる驚異の昆虫写真集です。



『訓蒙窮理図解』 第九章「四季の事」より